

# 「北原ふるさと暮らし学校」を開校

あなたの「ふるさと暮らし」を応援します をキャッチフレーズに、都会の方が田舎においてふるさと暮らしを学ぶために、北原区への移住者・藤木義博さん（北原区ふるさと暮らしアドバイザー）を講師に、平成21年に「北原ふるさと暮らし学校」を開校しました。

そして、平成21年から年1回、夏休みの期間に北原公民館を宿泊施設にした、1泊2日の「北原ふるさと暮らし学校夏休み編」を実施しています。内容は、農産物の収穫体験、自然散策、森林体験、祭礼の獅子舞の練習見学、ナイトハイク、地域住民との交流など、都会ではできないワクワク体験が満載です。今後は、1泊2日を2泊3日に延長したり、冬の雪国体験も実施したいと意気込んでいます。

## ～北原ふるさと暮らし学校の様子～

平成21年



ジャガイモ掘り



田んぼで虫取り



平成22年



自然散策



農産物の収穫体験

平成23年



ふるさとの森でクラフトづくり



農産物の収穫体験

北信濃新聞 平成21年8月22日

### 芋掘り・生き物に歓声が 飯山市北原ふるさと暮らし学校



北原の畑でジャガイモを掘る千葉の家族

飯山市瑞穂北原の「北原区ふるさと暮らし支援委員会」は9・10の両日「北原ふるさと暮らし学校・夏休み編」を開校した。若者を中心とする過疎が進み、50歳以上の人口比率が50%を超えて「限界集落」にも位置付けられる同区、ふ

飯山市瑞穂北原の「北原区ふるさと暮らし支援委員会」は9・10の両日「北原ふるさと暮らし学校・夏休み編」を開校した。若者を中心とする過疎が進み、50歳以上の人口比率が50%を超えて「限界集落」にも位置付けられる同区、ふ

今回、6年前に北原に農家を購入し、週末や長期休暇などに滞在する、千葉県流山市の教員、藤木義博さん（57）を講師に「ふるさと暮らし学校」を開校した。都会地の田舎志向の人たちの「ふるさと探し」を応援し、移住・定住を促すのが主旨。

後、さつそく出沢俊明さんの畑でジャガイモ掘りに挑戦。地中から芋に連なっているジャガイモもさることながら、子どもたちはカエルやミミズ、農作物を食い荒らすネズミなどを見つけては、大きな歓声を上げた。同日は温泉を楽しんだ後、野菜料理を堪能

と暮らし学校・夏休み編として、千葉県から3家族・8人を受け入れた。いずれも千葉県松戸市に住む藤木さんの現・元教え子とその家族で、中学1年生と小学校5年生の兄弟だけの参加も。

9日午後、北原を訪れた8人は公民館でのオリエンテーションの後、さつそく出沢俊明さんの畑でジャガイモ掘りに挑戦。地中から芋に連なっているジャガイモもさることながら、子どもたちはカエルやミミズ、農作物を食い荒らすネズミなどを見つけては、大きな歓声を上げた。同日は温泉を楽しんだ後、野菜料理を堪能